

National

ナショナルハンドドライヤー 屋内設置形 工事説明書

品番

FJ-T13F1

製品を安全に設置しお使いいただくために、この工事説明書を
よくお読みのうえ、工事手順に従って工事をすすめてください。

もくじ

工事手順

安全上のご注意	2
各部のなまえと寸法	4
同梱付属品の確認	4
取り付け工事要領	5
取り付け前の準備をする	
本体を取り付ける	
試運転	裏表紙

お客様への取り扱い説明

取扱説明書に基づいて製品の取り扱いを説明してください。
保証書は必要事項を記入のうえ、工事説明書および取扱説明書
と一緒にお客様にお渡しください。

上手に使って上手に節電

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は、絵表示の一例です。)



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



警告

■絶対に改造をしない



発火したり、
異常動作して、
火災や感電・けがの
原因になります。

分解禁止

■施工は説明書に従い、 確実に行う



不備な施工は、
火災・感電の原因に
なります。

- 施工は必ず電気工事士の
資格者が行ってください。

■施行は必ずブレーカー を切ってから行う



感電の原因になり
ます。

■定格 15A・交流 100V のコンセントを単独で 使う



他の機器と併用する
と、発熱による火災
の原因になります。

■壁掛けパネルのねじやアンカープラグが壁面や 壁内部の金属板に接触しないように取り付ける



メタルラス、ワイヤラス、ステンレス板などに接触して
いると、漏電した場合、火災の原因となります。
(電気設備技術基準第 182 条)

■必ずアース工事をする



故障や漏電のときに
感電の恐れがあります。

アース線
接続

■電源には漏電ブレーカー を取り付ける



故障や漏電の
ときに感電の
恐れがあります。

- 電気設備技術基準第 28 条に
従って第三種接地工事を行つ
てください。

⚠ 警告

■電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない



禁 止

傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

⚠ 注意

■配線工事は、電気設備技術基準や内線規定に従って安全・確実に行う



誤った配線工事は、火災・感電の原因になります。

■十分強度のあるところに確実に取り付ける



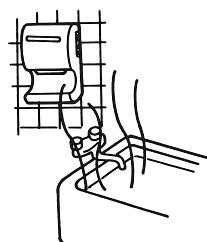
落下により、けがの原因になります。

- 5~7ページを参照してください。

■浴室など高温・多湿・水のかかる場所には取り付けない



水場使用
禁 止

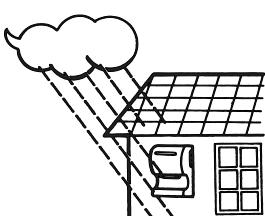


漏電して、感電・火災の原因になります。

■屋外・屋側へは取り付けない



禁 止



漏電して、感電・火災の原因になります。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを持たず、電源プラグを持って抜く



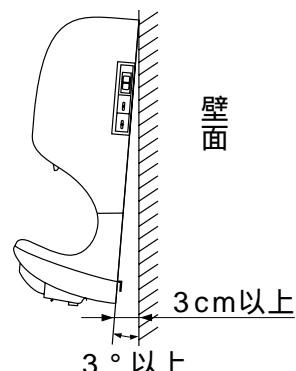
コードがショートや断線して、感電・火災の原因になります。

お願い

- 直射日光の当たる場所に取り付けないでください。(変形や故障の原因になります。)
- 本体を取り付ける時に本体前後の傾きが3°以上(本体天面と底面の垂直方向の差が3cm以上)にならないように取り付けてください。(水受けカップへ水が流れなくなります。)



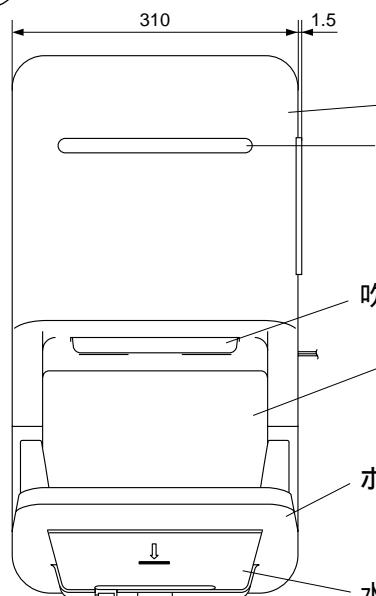
禁 止



各部のなまえと寸法

単位(mm)

正面図



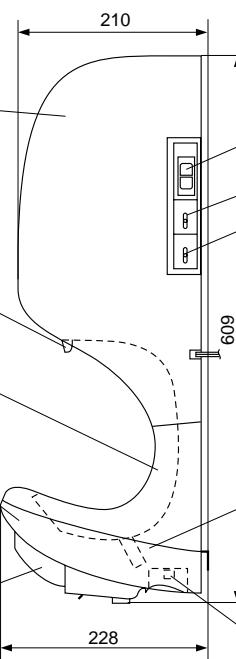
本体
表示部

吹出しノズル

水受け

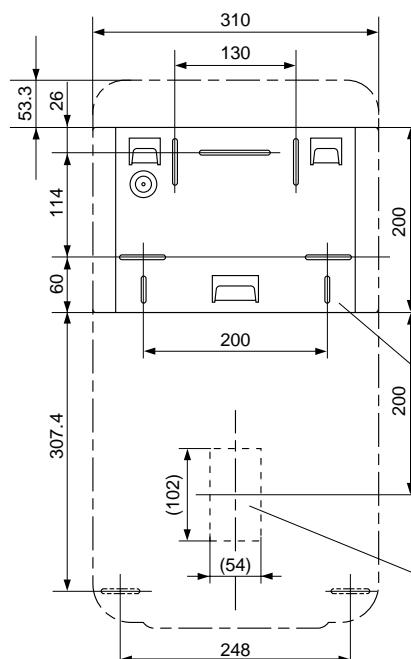
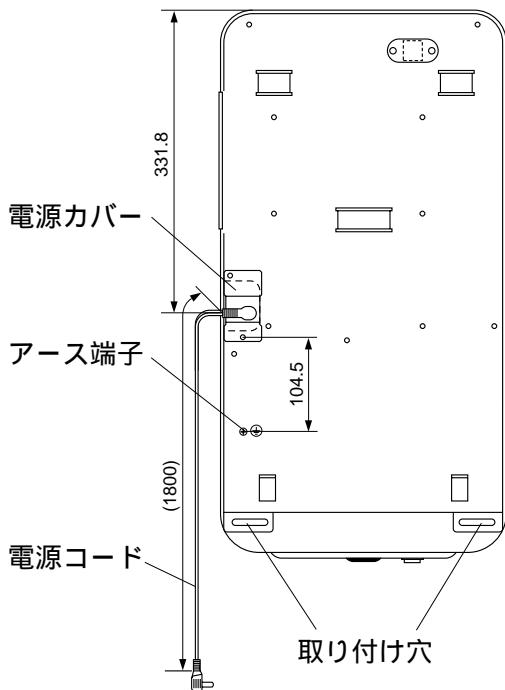
ボトムケース

水受けカップ



側面図

背面図

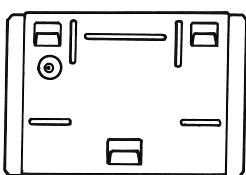


取付面詳細図

製品質量：9.5kg

■付属品

工事をはじめる前に、□欄に✓印を入れて付属品を確認してください。



(長さ 180cm)



(5×25)

□壁掛けパネル…1個 □アース線…1本 □ソフトテープ…1本 □ケーブルクランプ…1個 □ねじ…6本

取り付け工事要領

1. 取り付け前の準備をする

1 取り付ける場所を決める

- ① 本書の「安全上のご注意」(2~3 ページ) をよくお読みください。
- ② 壁掛けパネルの取り付け位置は、十分強度のあるところを選び、本体の周囲に壁などがない、下方はお手入れをする上で、障害になるものがないように 10cm以上あけて、取り付け場所を決めてください。
- ③ 取付高さは、床面から壁掛けパネルの上端までの寸法を 123~128cm として取り付けてください。
(図 1-A)

◆洗面台の上に取り付ける時は (図 1-B)

洗面台の上に取り付ける時は洗面台から壁掛けパネルの上端までの寸法を 63cm にして取り付けます。

お願い

洗面台の高さが 80cm を超える場合は、取り付けないで下さい。(ご使用上支障をきたすことがあります)

2 本体からボトムケースをはずす

水受けカップを取りはずし、本体底部の固定ねじをゆるめ、ボトムケースを取りはずします。(図 2)

2. 本体を取り付ける

本製品は、コンセントを使う場合と専用配線工事を行う場合の 2 通りの施工ができます。

■コンセントを使う場合

1 壁掛けパネルを取り付ける

- ① 取り付け高さを決める
壁掛けパネルの取り付け高さを床面からの高さで決めます。(図 1)
- ② 壁掛けパネルを取り付ける
壁掛けパネルを付属のねじ(4 本)で固定します。(図 3)

◆コンクリート壁に取り付ける時は

- ① 壁掛けパネルの取り付け用穴にアンカープラグの位置を決めます。
- ② コンクリート用ドリルで下孔(7カ所中 4 カ所)をあけ、ねじで取り付けます。
(市販のアンカープラグのねじは、M5~M6 のものをお使いください。)

図 1-A

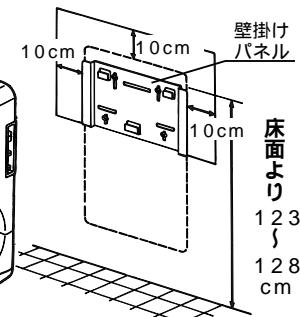


図 1-B

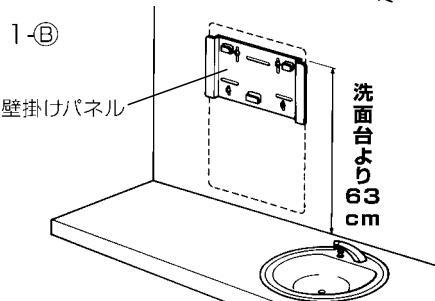
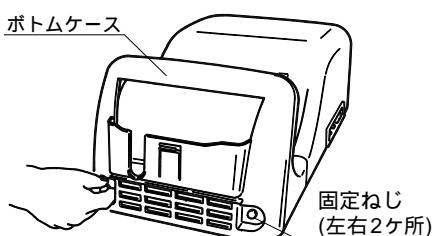


図 2



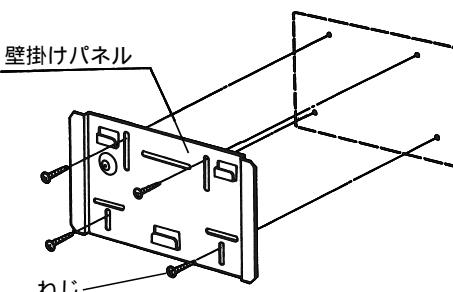
警告

壁掛けパネルのねじやアンカープラグが壁面や壁内の金属に触れないようする



金属板に触れると、漏電した場合、火災の原因となります。

図 3



取り付け工事要領

2 本体を壁掛けパネルに取り付ける

- ① 付属のアース線を本体背面のアース端子に確実に固定します。
- ② 本体を壁掛けパネルの引掛け部(3カ所)に確実に差し込みます。(図4)
- ③ 付属のアース線を利用してアース工事をします。



必ずアース工事をする

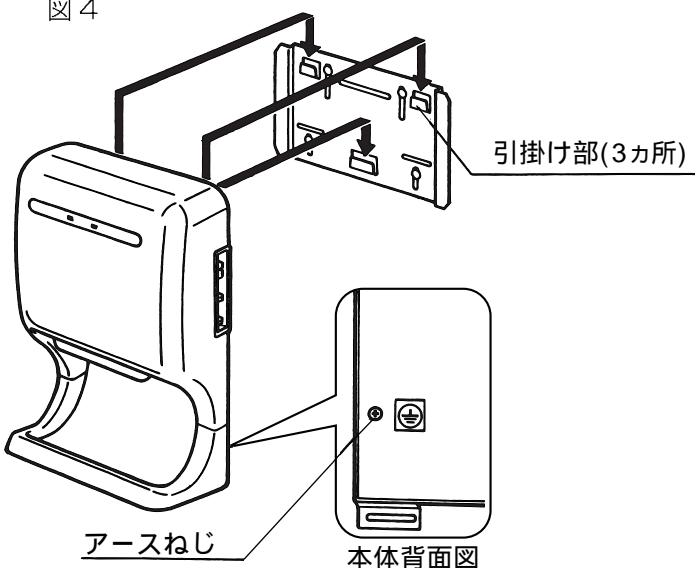


故障や漏電のときに感電の
恐れがあります。

アース線
接続

- 電気設備技術基準第28条に従って第三種
接地工事を行ってください。

図4



3 共通の工事をする (☞裏表紙)

■専用配線工事をする場合

1 壁掛けパネルを取り付ける



電源には漏電ブレーカーを取り付ける



故障や漏電のときに感電の
恐れがあります。



配線工事は、電気設備技術基準や
内線規定に従って安全・確実に行う



誤った配線工事は、火災・感電の
原因になります。

①配線工事をする (図5)

右図のように壁掛けパネル取付位置との距離を決めて、市販のスイッチボックス(JIS C8336:1個用スイッチボックスカバーなし)を埋め込み、屋内配線コードを配線します。

お願い

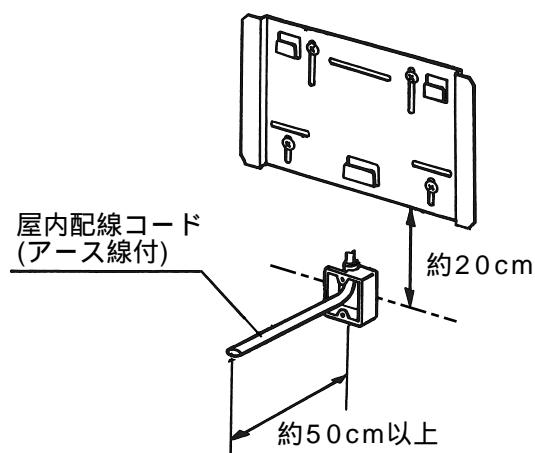
- 電源は定格15A・単相交流100Vをご使用ください。
- 屋内配線コードは、単線φ2またはφ1.6のVVVFケーブルを使用してください。

②壁掛けパネルを取り付ける (☞5ページ)

壁掛けパネルを付属のねじ(4本)で固定します。

- コンクリート壁に取り付ける場合は、市販のアンカープラグをお使いください。

図5

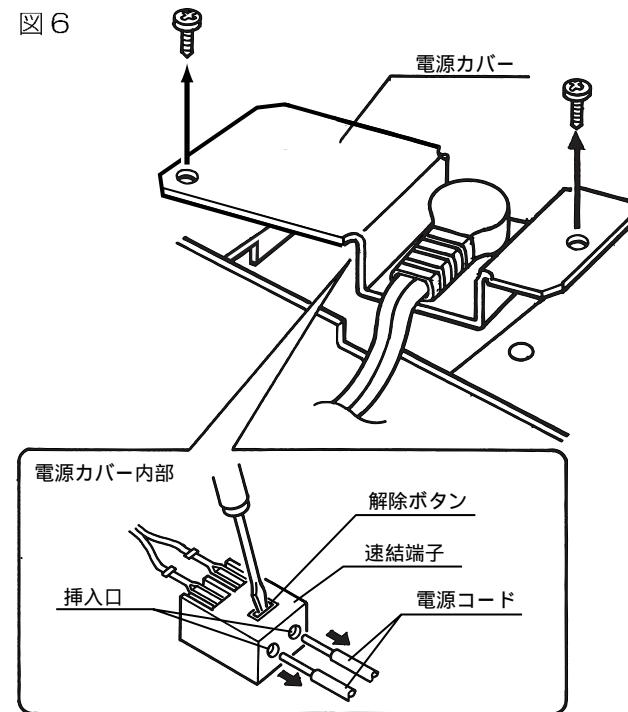


2 本体を壁掛けパネルに取り付ける

① 本体の電源コードをはずす

本体背面の電源カバーの取付けねじ(2本)をはずし、速結端子の解除ボタンをマイナスドライバーで押しながら電源コードを抜きます。(図6)

図6



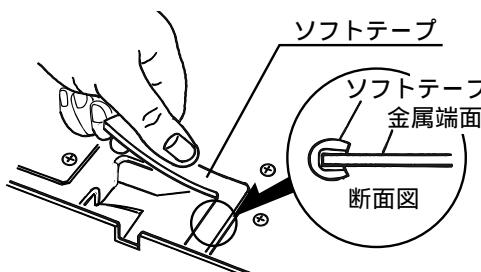
② ソフトテープを取り付ける

付属のソフトテープを屋内配線コード出口部周囲の金属端面に張り付け、屋内配線コードを保護します。(図7)

③ 屋内配線コードを本体に接続する

アース線の長さを考慮して、屋内配線コードを切断します。屋内配線コードの電源線被覆を15 mmむき、速結端子の挿入口へ被覆むき部が完全に見えなくなるまで、確実に奥へ差し込んだのち、引っ張って抜けないことを必ず確かめます。(図8-A)

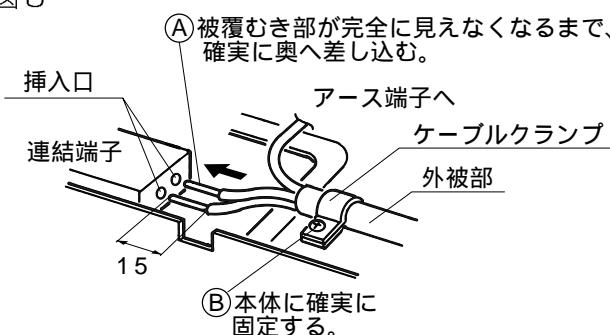
図7



④ 屋内配線コードを本体に固定する

屋内配線コードの外被部を付属のケーブルクランプを本体に確実に固定します。
(クランプ取付けねじは、電源カバーの取付けねじを使います。)(図8-B)

図8



⑤ アース線を利用してアース工事をする



警告

必ずアース工事をする



故障や漏電のときに感電の恐れがあります。

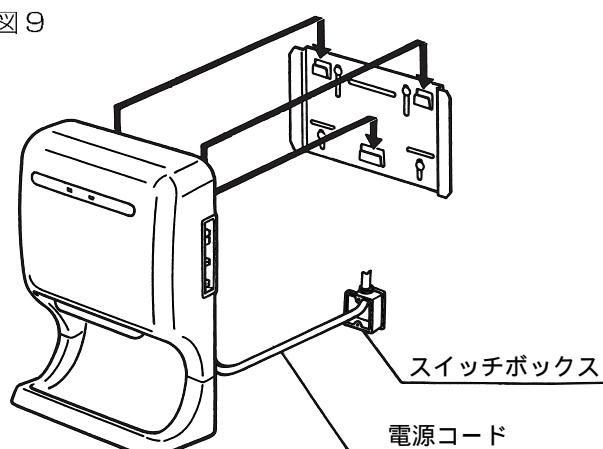
アース線
接続

●電気設備技術基準第28条に従って第三種
接地工事を行ってください。

⑥ 本体を壁掛けパネルに取り付ける

電源コードを処理しながら、本体を壁掛けパネルの引掛け部(3カ所)に確実に差し込みます。(図9)

図9



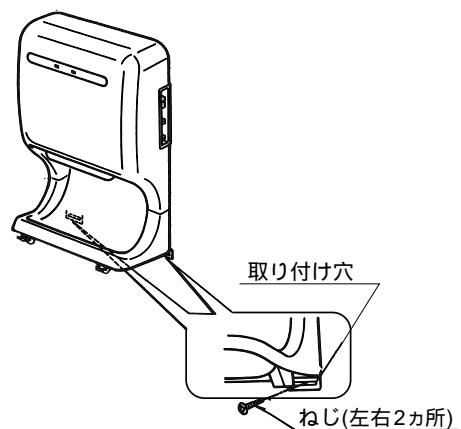
3 共通の工事をする

① 本体を付属のねじで壁に固定する(図10)

本体底部の取り付け穴に付属のねじ(左右2カ所)で本体を壁に固定します。

●コンクリート壁に取り付ける場合は、市販のアンカープラグをお使いください。
(☞5ページ)

図10



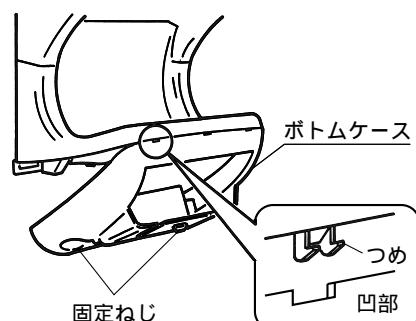
② ボトムケースを本体へ取り付ける(図11)

① 本体のつめとボトムケースの凹部を合わせます。

② 固定ねじ(左右2カ所)で確実に本体に固定します。

③ 水受けカップを本体に「カチッ」と音がするまで入れます。

図11



3. 試運転

電源プラグを専用コンセント(定格15A・交流100V)に接続するか、または専用配線の場合は漏電ブレーカーを入れてください。

●次の確認をしてください。

① 電源スイッチを「入」にして、電源ランプが点灯し、点検ランプが消灯していることを確認します。(図12)

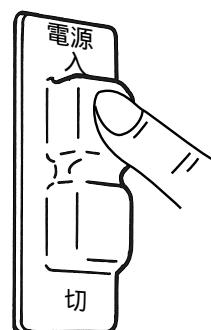
② 吹出しノズルの下に手を差し出すと運転し、手を引くと停止することを確認します。

図12

(表示部)

点検 電源
(消灯) (点灯)

(操作部)



お願い

●「電源スイッチ」を「入」にして、約4秒間は本体の初期状態設定のため運転しませんので、それ以後ご使用ください。